

令和3年度第2回山形県図書館協議会 会議録

日時：令和4年2月9日（水）13:30

会場：（オンライン）

1 開 会（三宅副館長）

2 あいさつ（佐藤館長）

本日はお忙しい中、第2回図書館協議会にご出席いただきありがとうございます。委員の皆様方には日頃から県立図書館の運営にご協力を賜り重ねて御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の第6波により、1月27日から山形県もまん延防止等重点措置が適用され、本館でも一部エリアの利用制限や滞在時間の短縮など、利用者の方々にご協力をいただきながら安全・安心を第一に館内運営を行っているところでございます。

さて、県立図書館では、「ときめく、たよれる、つながり・ひろがる図書館」を4本の柱とし、多様な読書機会の提供、戦略的な情報提供・発信を通じて地域の課題解決と県全体の発展に寄与する知の拠点を目指す取組みを進めてまいりました。企画展示や講座、関係機関との連携による様々なイベント等を始め、多様な取組みを実施してまいりましたが、その状況につきましては後ほどご報告申し上げます。

本日は7月に開催の第1回協議会でご議論いただいた今後の運営の指針となる新しい計画の答申案についてご協議いただく予定です。この計画は基本的運営方針と中期的な事業計画としての性格を併せ持つもので、令和4年度から7年度までを計画期間とし、今年度内の策定を予定しているものでございます。前回の協議会以降、委員の皆様方からは多くのご意見、ご助言を頂戴しておりまして、皆様方のご意見を反映させた計画を策定してまいりたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

次年度以降は策定された新たな計画を基に、その機能を最大限に活用し、県民一人ひとりの生涯学習の基盤となり、県民の成長と地域に貢献する図書館を目指してまいりたいと存じますので、委員の皆様方には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくようお願いいたします。

3 報 告

（北口委員長）

コロナ禍での全国一斉休校からもう2年経って、社会での経験値も上がり、「歩みを止めず、今できることを」という姿勢で物事が動いているのかなと思う今日この頃です。しかし、歩みを止めずコロナに負けないというお立場で過ごされている中、委員の皆さん、県立図書館の皆さんも様々なご苦労があることと拝察いたします。

そんな中、この図書館協議会もコロナに負けず、初のオンラインでの開催になりました。

今までいただいたご意見を集約し、いよいよ答申案の検討となります。有意義な協議となりますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

県立図書館の利用状況、賑わいづくりの取組みについて

(中村経営主幹、東海林企画主幹)

資料1、2に基づき説明

(北口委員長)

Twitterのほう、8月から開始されたということでしたけれども、反応などはいかがですか。件数をご報告ありましたけれども、何か具体的に利用者の方からご意見や何かそれに関連して反応などはいかがでしたでしょうか。

(東海林企画主幹)

Twitterの反応につきましては、フォロワーが200名をちょっと超している状況でして、まだ大々的なPRはしていないところですが、今後していきたいなと思っております。

リツイートについては、関連するイベント、連携した団体からリツイートいただいて、それで閲覧が伸びているというふうな状況もございます。

(伊勢委員)

資料2の5ページの一番上、米沢の上杉博物館との連携企画、これのオンラインの参加が55名ということで結構多いのかなと思いますが、これは県内の方だけ参加したのか、その内訳はわかりますかね。

(東海林企画主幹)

55名の中で県内からは4名でございました。51名が県外からというふうなことで、非常に県外からの参加者が多かったという状況です。

(伊勢委員)

なるほど。多分、非常に興味のある話だったのかなと思って、結構オンラインの方が参加されているなと思いました。

県外の方も参加しても私はいいなと思っていて、逆に県外にもPRになるかなと思ってますので、やっぱりこの企画が非常に良かったのかなと思いました。

今YouTubeでは視れないんですね。

(東海林企画主幹)

今、上杉博物館の講師の方から内容をご確認いただいております、その確認が済み次第YouTubeに上げるような形にしていきたいと思っております。

(井上委員)

まず、コロナ禍の状況ですごく苦勞されているイベントもたくさんあったと思うのですが、この会議に関しましても延期になったり、結局オンラインという形で何度も副館長さんにご連絡いただきまして、ありがとうございます。

たくさんイベントもされているのですが、私もとても興味深い内容もたくさんあるんで

すが、せっかくやられているイベントなのにやっぱり発信力というか、皆さんに知っていただかないとやっぱり参加する方も固定になってしまったりとか、年齢層もそうでしょうし、いろんな幅広い参加を求めるのであれば、やっぱり発信というのはすごく大事ではないかなと思いました。

それで、先ほど Twitter のほうで 200 人超えということでフォロワーがいらっしゃるとお話あったんですけども、今後インスタの運用という検討はあったりするものなんでしょうか。

(東海林企画主幹)

まだインスタまでは考えていないところでございます。インスタですとやはり画像がメインになるのかなということ考えているんですけども、イベントの様子とかですね、そういったものをインスタに上げるということは可能かと思うんですけども、ちょっと著作権の関係があって本を出すのはなかなかつらいなところがあって、図書館らしいインスタってどういうのかなというところを少し考えながら、そういう SNS も活用できるところがあればしていきたいなと考えているところでございます。

(高橋委員)

やはりコロナ禍の中で人を集める事業とかには本当にご苦労されているかな、なんて思っているところです。このぐらいの事業を年間通してというところに本当にご尽力されているとすごく、同じ図書館としてすごく私たちががんばらなきゃいけないなと思っているところです。

それで二つぐらい質問させていただきたいんですが、3 ページの②のところに「理科読について」ということでお話がありました。こちらのほうに関しまして、理科読マイスターの講師人材の育成ということであると思うんですが、実際にどのくらいの方がマイスターをご希望されて、地域にどのくらい持ち帰れるんだろうというところが一つと、あと来年度この事業に関して継続的に、いろんな状況があると思うんですが、単年度ではなくて継続的な事業にしていくとしたら、今のところの予定ではどのような状況になっているのかなというところが知りたいなと思いました。

あと、先ほど伊勢さんのほうからもお話ありましたように、刀剣に関しましては本当に全国的にとっても興味があって今すごくブームなんですけれども、オンラインの募集に関しまして、どのような方法で募集をなさって受付してとか、そういったところをどのように発信しているのかなというところが気になりました。

(東海林企画主幹)

最初の理科読の関係になります。理科読マイスターについては、この②の「Let's 理科読 空気ってなんだ？」というところを募集する際に、実際会場にいらっしゃった方にも「こういうマイスター、いかがでしょうか」ということで人を募ったところでございます。それで 10 人程度から希望するというところをいただいております、広がっていけばなということ考えております。

それで実際なんですけれども、3月に理科読の講座開催を予定してございます。その開催に向けて現在3名の方から実際にそのイベントの企画、内容というところを山形大学理学部の先生と一緒に詰めていただいている状況がございまして、ですからこういったことで少し地域にも近寄っていただきながら、ノウハウを積んでいただけるのかなと考えているところでございます。

来年度についても当然実施を継続していきたいということで考えておまして、何回か複数回、3回ぐらいになるかと思うんですけれども、理論編とか実践編とか、実際に演習するとか、そういったことを県立図書館を会場に実施していただきたいというふうなことでは考えているところでございます。

その次の刀剣の関係の広報というところなんですけれども、この刀剣についても最初はやはり県内向けの通常のイベントと一緒に形で募集をしたところでございました。それでツイートしたところですね、刀剣関係の雑誌の方がリツイートしてくださって、そこから全県に周知になったというふうなところで、全国の皆さんから参加いただいたという状況になりました。

そういうことで募集についてもメールと言いますか、WEBで申し込めるようにこの回はしましてですね、その意味でも全国から申し込みやすい状況だったのかなというふうなことでは考えております。

(高橋委員)

ありがとうございました。理科読に関しましては、実はこちらのほうの館長がマイスターを取るぞということで一所懸命がんばっておまして、地域ではもう何回も理科読を推進してやっております。あともう一回行くとマイスター取れるんだなんてがんばっておられましたので、引き続きよろしくお願ひしたいなと思っております。

あと、刀剣につきましても本当にどこで、「バズる」って言ったらかおかしいんですけども、どこにヒットするのか本当にわからない世の中になっているので、いろんな興味・関心を発信できるような形で行けばとてもありがたいのかなと思っております。

(北口委員長)

本当に新しい広報手段、Twitterは20代中心、またFacebookは一説では10代が極端に少なく、もう40代中心とか、男性がよく使われているとかいう話もあるそうですけれども、うまく使い分けられてですね、されたらと思います。

YouTubeチャンネルのほうも拝見いたしました。ただ、低年齢の方から易しい日本語を必要とする方まで理解できるように、YouTube等、お手間かもしれませんが字幕にふりがながあると優しいのかなというふうに思いました。

続きまして協議に入りたいと思います。

4 協 議

県立図書館の新しい計画の答申案について（東海林企画主幹）

資料 3、4 に基づき説明

（鈴木委員）

答申案のタイトルと言うんですかね、「運営基本プラン 2025」、こういうふうになったということで、説明を伺って意気込みはとても伝わってくると思います。

ただですね、これに続く本文の表記とのアンバランスがちょっと気になるんですよね。本文では令和何年とかそういう言い方をずっとしていますよね。それで「2025」っていうのが出てくるのが確かやっと 9 ページになってのかな、目標指標の表の中で「(2025 年度)」というふうにやっと西暦表記が出てくる。その前までは多分元号表記、年号表記が続いているんだと思うんですよね。せっかくタイトルで「2025」というふうに、わかりやすさって言うんですかね、そういうことを打ち出すのであれば本文も思い切ってそっちに合わせるとか、そういうふうにしたほうが統一性が取れているのかなという感じがしました。そのタイトルに関して、まず以上のような感想があります。

（東海林企画主幹）

全体をもう一度見直して、委員がおっしゃるような形で整合が取れるような形にしていきたいと思います。

（井上委員）

まず、この今回の報告にはなかったのかもしれないんですけども、私の周りで聞くとところによると、やはり駐車場の問題で、建物の隣に駐車場が来たことによって本当にベビーカーを引くお母さま方の声ですとか多く、以前の駐車場よりもすごく使いやすくなって、今日はあれですけども、雪の日、雨の日だとちょっと躊躇するっていうような日でも隣に来たことによってすごく使いやすくなったという声は、私は個人的には多く聞いているなと思うんですけども、実際その利用をされているお客さまの声というのはどのぐらいなものなのでしょうか。

（三宅副館長）

駐車場はリニューアルの際に新しくしていろんな場面を通じて PR しているんですけども、まだ意外と知らない人もいたりするので、いろんな機会を通じて引き続き「すぐ直近に駐車場ある」というのは PR していきたいと思います。使っている方からは大変好評です。

（井上委員）

そうですね。じゃあもう少しやっぱり PR が必要だということになるんですね。

もったいないですね。

（伊勢委員）

質問になりますが、12 ページにある一番下の電子書籍サービスの検討というのがあるわけですけども、これはあくまでも検討ということで 2025 年までかけて検討をするということで、そういう解釈ですね。2025 年には何か電子書籍が形になっているということではな

くて、あくまでも財源などの情報収集を2025年までするという意味合いと捉えてよろしいのか、ちょっと質問です。

(東海林企画主幹)

電子書籍につきましては、やはり一番の課題が予算的のところになります。どうしても限られた予算の中で、電子書籍の購入によって一般の本が買えなくなるとかですね、そういったところもあるものですから、あくまでも電子書籍導入であればプラスの予算での対応ということになるのかなと思っておりまして、なかなか計画には書きづらいというところで検討ということにしております。

ただ、何かコロナ禍での何かの政府の予算とかですね、そういったものがつくようなことがあればぜひ進めてまいりたいということで考えておりますし、最近のこの電子書籍の状況を見ると、地域資料、個人での出版ということも電子でされている方というのが多くなっているのかなということでも考えておりまして、そういった電子のデータというものをどうしていくかということも考えていかなくはいけないのかなということでも思っております。そういったことで電子書籍全般について検討を進めていきたいなと思っておりますのでございます。

(伊勢委員)

わかりました。ありがとうございます。

(高橋委員)

12 ページのところ、サービスの充実ということで今後本当に期待されるというか、非来館者サービスの部分で周知広報と利便性向上、図書館に行かなくても、行けなくてもサービスが受けられるというところがこれから新・生活様式の中で必ず必要になってくると思いますので、このところは本当にありがたいなと思いました。

あともう一つですけれども、13 ページの部分の目標指標ですけれども、この中で非来館者サービスをどのように充実させていけたかという指標のところ、閲覧ページ数とか見ていただけたというところ、こちら、Facebook のほうも e サイトと言うところでのどのぐらいの方が「いいね」ボタンを押してくれているとか、あとは見てくださっているとか、なんていう指標のほうも出たりしますので、そういったところでも評価の基準になってくるのかなと思っております。

あともう一つですけれども、図書館サポーターの活動日数ということで、ここ、大変なかなか、今こういう状況の中でここを目標指標にしていくのはとても難しいんじゃないかなと思っております。県立図書館さんの本当に大きな特徴としては、関係機関との連携というところがすごく大きい部分がありますので、そういったところを何か目標の指標の中で成果のほうにつなげていければ、サポーターの方というよりもそういった関係機関との充実連携というところがすごく特徴的な部分になってくるのかなと思って聞いておりました。私からは以上になります。

(東海林企画主幹)

Facebook の関係についてもフォロワー数ということで14 ページの下のほうになりますけれども、参考指標には掲げておりますけれども、委員におっしゃっていただいたようなそういう「いいね」関係のところについてもちょっと検討させていただきたいと思います。

合わせてこの関係機関との連携というふうなのは、大変ありがとうございます。そこについてどういうふうな指標ができるのか、少し検討させていただきたいと思います。

(北口委員長)

12 ページのインターネットによる情報発信のさらなる強化のところですが、今後予算の面等も絡むとは思いますが、ホームページのところユニバーサルデザインと言うのでしょうかね、視覚障がい者、聴覚障がい者向けへの、現在のホームページには文字が反転するとかそういった機能はないように思いますので、いろいろ予算も関わることもかもしれませんけれども、その追加というか、多くの人に開かれている図書館というところでは必要な機能ではないかというところを思ったところです。

(鈴木委員)

今回の基本プラン、インターネットの活用ということにかなり重点を置いているのかな、今の時代だからそれは当然だと思うんですけども、その発信する手段、方法だけに集中しちゃうんじゃないかと何を発信するかという中身が一番大事なんだということもやっぱり基本に据えてやっていただければいいんじゃないのかなと思うんですね。

やっぱり会議の中でも、今日出ましたけど、図書館の一番の財産というのは本なわけですよ。これまで蓄積された本。ずっと長い間蓄積された図書館の本の本当の価値とか面白さっていうものを職員とかスタッフの方が理解して、それをどうやって多くの人に伝えていくのか、価値とか面白さをどうやって伝えていくのか、それをやっぱりベースに据えてやっていただきたい。発信は重要なんですけども、発信と同等にというか、それ以上にと言ってもいいのか、何を発信するかっていう中身が大事になっていくと思いますので、その辺はお願いしたいなというふうに思います。

(東海林企画主幹)

鈴木委員がおっしゃいます通り、やはり中身というふうなものが大事になるかと思えます。子ども向けというところではないのですけれども、やはり山形県の人口減少というのが非常に大きな問題になりますので、本県の魅力というものを伝える内容とか、子どもさんにそういったものを十分理解いただくような本などについても来年度以降も収集しながら、そういったものの発信と、県の魅力を発信する、山形県の歴史、価値を発信していくといったところにも力を入れて取り組んでまいりたいと考えております。

(伊勢委員)

質問になりますが、「縣人文庫」というのがあると思えますけども、あそこは今後ずっとあの形で変わらないんでしょうかね。ディスプレイされているものはずっと変わらず同じままで行くのか、中身が今後変わる予定というのはある、追加されるのかわかりませんが、あれも非常に歴史を伝えるという部分では非常に重要ななと思っていますけども、

何か考えはあるのでしょうか。結構ディスプレイしてね、見せてるなというところは感じるわけですけども。

(三宅副館長)

当面、人は変わらないのですが、展示物は、今展示しているのと、収蔵している部分もありますので、それは適宜入れ替えしながらやっていきます。

(伊勢委員)

なるほど。この先10年20年経てば、多分あそこに追加されてくる人もいるのかなと勝手に思ったりしていますけれどもお尋ねしたところでした。

(三宅副館長)

そこは検討してまいります。

(伊勢委員)

あと、この場で言っているのかわかりませんが、図書館でもYouTubeのチャンネルを設けられたと思いますので、先ほどのオンラインのほうをぜひそちらのほうにアップロードしていただいて、視れるといいのかなと思います。私もちょっと関わったイベントで、「自分史づくり」のほうに関わったわけですけども、YouTubeの閲覧数がやっぱり増えているんですよ。最初の、当日の閲覧者からまたかなり増えていますので、やはりこれはオンライン、YouTube、オンデマンドの配信の一番のメリットかなと思います。後からどんどんそれを視る人が増えていますので、それはそれでやっぱり残すことに非常にメリットがあるのかなと思いましたので、極力オンラインで配信したものはアーカイブして残していただくと、閲覧者が増えて、さらに皆さんの知識が深まるのかなと思います。

図書館はやはり一般市民、県民の知識を深める場だと思っています。昔はその知識を深める方法として本を読むしか方法がなかったわけですけども、今はやはりインターネットが普及したことによって本だけではなくていろんな方法でその知識を深めると、またはいろんなコミュニケーションを取りながら自分の人生を楽しむいろんな仕掛けって言いますかね、そういうことができる時代になっていますので、私としてはあまり本にこだわらなくて、とにかく自分の生活をエンジョイできるような、知識を深めながらそういう場になっていただくといいのかなと思いました。

(北口委員長)

そのほかいかがでしょうか。では2025年に向けて図書館のキャッチフレーズである「ときめく、たよれる、つながり・ひろがる」という存在になるための像が描けてきたのではないかと思います。図書館現場でのTwitterやらYouTubeやらFacebookやら、いろいろ交通整理する必要も今後出てくるのかなとも思いますけれども、図書館現場での業務負担過多にならないようちょっとした工夫でできることや外部の力も活用されていくことで目指す図書館像に近づいていくのかなと思ったところです。

事務局のほうには各委員の意見等を踏まえ、答申案の修正をお願いいたします。また、この後答申までの修正につきましては、私にご一任くださるようお願いいたします。

本日の議事全般についてご意見、ご質問等はありませんでしょうか。それでは議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。

5 その他

次回（令和4年度第1回）は、6月頃を予定。

6 閉 会（三宅副館長）

以上